

# 南アに合同事務所開設

AMDA、連合岡山、解放同盟岡山県連が方針

## 医療、教育や技術指導

アジア医師連絡協議会（本部・岡山市櫛津、菅波茂代表＝略称AMDA）、連合岡山（村上格会長）、部落解放同盟岡山県連合会（伊沢卓士代表）が二十日、共同プロジェクトとして南アフリカのヨハネスブルクに人道援助のための合同事務所を開設する方針を固めた。

事務所は南アを中心とした南部アフリカの貧困層を医療、教育、技術指導などの面で援助するとともに、万一、戦争や内乱、自然災害で難民が発生した場合は緊急救援の拠点となる。今後、三者の役割分担、資金面などを具体的に詰め、早ければ年末か来年初めにも設置したい考え。

連合岡山は近年、国際貢献を運動の柱の一つにしており、阪神大震災を機にボランティア活動にも力を入れ、連合本部（東京）もNGO（非政府組織）化構想を進めている。こうした中「本部の動きを先取りし、具体的な行動として地元本部を置くAMDAとの連携を打ち出した」（森本栄連合岡山事務所局長）という。

連合の地方センターが本格的な国際貢献に乗り出すのは初めて。一方、部落解放同盟県連合会は「アパルトヘイト（人種隔離政策）の反対運動を展開していた経緯があり、アパルトヘイトがなくなっただけでも、多くの人が貧困、飢餓や差別で苦しんでいる、人道援助で救済を自指したい」（伊沢代表）と

AMDAが医療面を担当するほか、建設、機械、電気、溶接など様々な技術を持つ連合傘下の労組員が、現地の人々にこれらの技術を指導。教育面は部落解放同盟県連合会と教員を組合員に持つ連合岡山が担当する方向で話が進められている。

「三者がそれぞれの長所を発揮して人道援助を行いたい」としている。

AMDAの菅波代表は